

アブラハム
チューリッヒ スイス
1955年06月24日

- 1 こんばんは、皆さん。
今夜、再びここに来られてとてもうれしく思っています。
ただ少し、疲れを感じております。
アメリカを出発する前に、いくつかの大きな集会を終えたばかりだったのです。
ですから、もし主が許してくださるなら、帰国したら少し休みを取るつもりです。
けれども、このスイスに来られたこと、そして皆さんのような素晴らしい方々の中におれることを、心から感謝しています。
私はこれまで世界中を旅してきましたが——
スイスで出会った人々ほど、親切であたたかい方々には、ほとんど出会ったことがありません。
これは本当のことです。
言わなければならないから言っているのではなく、心からそう思っているのです。
ですから、主が皆さんを大いに祝福してくださるように、心から願っています。
そして、私も——
皆さんが私にしてくださった祝福と同じように、皆さんにとって祝福となることができると願っています。
もしかすると将来、もし主の御心なら——
再びスイスに戻って、今度はもっと長く滞在できる日が来るかもしれません。残すところ、あと二晩の集会となりました。
そしてその後、私はまた旅立たなければならないでしょう。
- 2 たいてい、こういうものですね——
ようやく皆さんと親しくなれたころに、お別れを言わなければならない。
けれども、私は願っています。
いつの日か、私たち皆が一つの言語を話し、
老いることもなく、病もなく、死もない——
そんな場所で、再びお会いできる日を。
そのとき、私はお一人おひとりと1,000年の予約を取りたいのです。

そのときには、時間はいくらでもありますから。

けれども、今は「昼のうちに働くべき日」です。

主が言われたように、

「夜が来ます。誰も働くことができない夜が。」

さて――

ここに多くの祈りの手紙をいただいております。

私たちは、皆さんが神への信仰をもっておられることに、

心から感謝しています。

念のために申し上げますが、

これらの手紙には、特別なものを私たちが貼ったり塗ったりして
いるわけではありません。

ただ、神のみことばに従って、

信仰をもって祈っているだけなのです。

私のもとには、こうした祈りを通して癒されたという証が
何千件も届いています。

それは、神がご自身のことばを尊ばれた結果なのです。

3 さて、これからこれらの手紙のために祈ります。

私は心から願います――

神がここにいるお一人おひとりを祝福してくださいますように。

どうか、私と一緒に頭を垂れてくださいますか？

私と共に祈ってください。

神様は――あなたの祈りにも耳を傾けておられます。

4 天の父なる神様、

どうか憐れみをお与えください。

あなたの御霊が、どうかあなたの民の上に臨んでくださいますように、
父よ。

私たちは、いま――

このハンカチの上に祈りを捧げております。

どうか御霊が私たちに注がれますように。

私たちははっきりと知っています、

私たち人間の中に、何の力もないということ。

ただ――あなたの御言葉に従っているだけなのです。

かつて、荒野の中で青銅の蛇には何の力もなく、

それを支える柱にも何の力もありませんでした。

けれども、それを見上げた者たちは生きました——

それは、神の御言葉に従ったからでした。

ああ神よ——

天と地を創造された主なるお方よ。

これらのハンカチにも、どうか同じように働いてください。

これらが病の人々のもとに届けられたとき——

一人残らず癒されますように。

主よ、もし私たちあなたのしもべたちが、

御前に恵みを見出しているのであれば——

どうか、これがそのしるしとなりますように。

イエスのお名前によって祈ります。アーメン。

5 昨晚、私たちは少し夜遅くまで集会を続けてしまったようです。

私たちの一行の中の誰かが、こう教えてくれました——

「多くの方が、9時半の列車に乗らなくてはならなかった」と。

本当に申し訳なく思います。

皆さんを遅くまで引き止めるつもりはなかったのですが、

いつも時間を超過してしまうのです。

どうかお赦してください。

さて、創世記の22章、7節から読みたいと思います。

「イサクは父アブラハムに言った。『お父さん。』

アブラハムは答えた。『ここにいる、わが子よ。』

イサクは言った。『火と薪はここにありますが、

燔祭の小羊はどこにいるのですか?』

アブラハムは言った。『わが子よ、

神ご自身が燔祭の小羊を備えてくださる。』

こうして二人は一緒に進んで行った。」

そして、今度は22章の14節を読みます。

「アブラハムはその場所を『主が備えてくださる

(エホバ・ジレ アドナイエレ)』と名づけた。

今日でも『主の山において備えられる』と言われている。」

6 それでは、もう一度、頭を垂れましょうか。

全能の神よ、天と地を創られた方、すべての良き霊的賜物の与え主、永遠のいのちの源なるお方よ、ど

うか御言葉の上に祝福をお与えください。

語る者の唇を割礼し、聞く者の心にも割礼を施してください。

そして、今宵、神の御言葉の種が心の中に落ち、

多くの人が主イエスを信じ、病より癒されますように。

この祈りを、主イエスの御名によってお捧げします。

アーメン。

(※「時間を見ていてくださいね、長くなりすぎないように」)

ちょうど先ほど、私の後ろのマネージャーたちに、「時間を見ていてくれ」とお願いしたところです。

7 今夜もまた、アブラハムについてお話ししたいと思います。

私はあの聖書の中の古の人物たちが大好きなんです。なぜなら、旧約聖書に出てくるすべての人物や出来事は、新約の影(かげ)、いわば型だからです。

あの昔の出来事のすべては、十字架を指し示しておりましたし、そして今、私たちが生きているこの時代は、すべてが十字架を振り返っているのです。

つまり、十字架において、救いと癒しのご計画はすべて完成したということです——信じる者たちのために。

さて、昨夜は、アブラハムが契約の確認を受けたところまででしたね。

神様がアブラハムに約束を与えられた、そしてアブラハムはそれを信じた。

たとえそのときすぐに現実にならなかったとしても、

約束が与えられたのですから、もうそれは得たも同然なのです。

8 もしあなたが私に…(※通訳者に話しかけて)「ドングリの木、

こちらにもありますか?」(「はい」)

…もしあなたが私に「ドングリの木をください」と言ったとしましょう。

そして私があなたにドングリ(どんぐり)を一粒手渡したとしたら、

それはつまり、種の形をしたドングリの木そのものをすでにあなた

が受け取った、ということなんです。

同じように、私たちは神のことばを御言葉の種の形で

お伝えしているのです。

なぜなら、それこそが神の約束が種となって与えられている姿だからです。

主イエスはこう言われました——

「神のことばは、蒔かれる種である」と。

どんな神の神聖な約束であっても、それを疑いを混ぜずにあなたの心に

受け入れたならば、
必ずその約束通りの実を結びます。
なぜなら、それは神の約束そのものだからです。
ですから、アブラハムがそうしたように、
その御言葉にしっかりととどまりなさい。
そうすれば、主はあなたのうちにその約束を現実にしてくださるのです。

- 9 さて、ここにおられる、椅子や担架に座っておられる方々——
神はあなたを愛しておられます。
あなたの体に何が起こっていたとしても、
もし神が全能の神であられるなら、
神にはすべてのことが可能です。
逆に、もし何か「できないこと」があるなら、
その方はもはや全能の神ではないということになってしまいます。
私は、自分が何を語っているのかを確信していなければ、
この場に立って、あなたに向かって話すことなど決してできません。
よく見てみてください——
毎晩、誰かが担架や車椅子から立ち上がり、
麻痺していた人や、身体に不調があった人が癒されています。
耳の聞こえなかった人が聞こえるようになり、
目の見えなかった人が見えるようになっていく。
それは、生ける神のしるしです。
つまり、
神は今も生きておられるのです。
神は時に、その働き人を地上から取り去られることがありますが、
神の霊を取り去ることは決してありません。
神はエリヤを天に引き上げられましたが、
その霊はエリシャの上に注がれました。
それから何百年もの時を経て、その同じ霊がバプテスマの
ヨハネの上にも注がれました。
そして、
終わりの時代にも再び来ると預言されています。
これは、神ご自身が約束されたことなのです。

- 10 さて、悪魔もまた、人を取り去りますが、

その霊はこの地上に残り、他の誰かに宿るのです。

イエス様は、イエスを信じようとしなかったパリサイ人たちに

こう言われました：

「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者たちだ。」

さらにこうも言われました：

「あなたがたの父祖たちで、預言者たちを迫害しなかった者がいるか？」

つまりこうです——

霊はこの地に残り、人は死んで去るのです。

そして、よみがえりの時に裁きがあるのです。

さて、アブラハムはというと、

彼は最初に神の約束だけを頼りに、見知らぬ国に旅立ち、寄留した人です。

アブラハムは、

この世のすべての仲間たちと分かれて、

ただ一人で神と共に歩む者となり、

そして神の友と呼ばれるようになったのです。

11 昨夜は、神がどのようにして契約を確認されたかを学びました。

その中で、カルバリー（十字架）の美しい予表が示されていました。

——つまり、ご自身の御子を捧げられるということ、

あらかじめアブラハムに型として示されたのです。

その後、神は再びアブラハムに現れ、

「わたしは胸のある者(Breasted One)(養いの源)である」

とご自身を表されました。

これはつまり、アブラハムが神に対して乳飲み子のようにより頼み、

神から力を受け取ることができるように、という意味です。

アブラハムはすでに100歳、

サラも90歳で、

閉経してからすでに40年が過ぎていました。

彼女がまだ少女の頃にアブラハムと結婚し、

彼らは長年夫婦として共に歩んで来たのです。

しかし、子どもが与えられないまま、

自然的には望みのない状態になっても、

それでもなお、神の約束を信じ続けていたのです。

それは、まさに——素晴らしい信仰です。

12 それこそが——私たち皆が持ちたいと願う信仰です。

議論する必要はありません。

聖書は議論のためのものではなく、

宣べ伝え、そして生きるためのものです。

イエス様はこう言われました。

「もしわたしが父のわざを行わないのなら、わたしを信じなくてよい。

だが、もし行っているのなら、そのわざを信じなさい。」

今日も同じです。

私たちがキリスト者としての生活を生きていなければ、

人々は「あなたはクリスチャンではない」と言うでしょう。

しかし、キリストがあなたの内に生きておられるなら、

その方はご自身の生き方を、あなたの内で生きてくださるのです。

13 パウロが言ったように、

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私の内に生きておられるのです。」

そして、キリストが人の内に生きておられるなら、

キリストはこの地上におられた時と同じように、

ご自身の生涯をその人の中で生きてくださいます。

なぜなら、主ご自身がそう約束されたからです。

主は言われました。

「しばらくして、この世はもうわたしを見ないが、あなたがたは

わたしを見る。

わたしは世の終わりまで、あなたがたと共にいる。

そしてわたしのする業を、あなたがたも行う。」

今、イエス様は死からよみがえられ、

この地上におられた時と同じ力で、ここにおられます。

そして今も、

同じ種類の人々を救い、同じ種類の病を癒し、

同じ種類の幻を示しておられるのです。

14 新約聖書の中で、教会が最初に始まった時、

ペテロはその説教の中でこう語りました：

「終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。

あなたがたの息子や娘は預言し、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見る」

— 使徒の働き 2章17節(ヨエル書の預言の引用)

これは神ご自身が約束されたことであり、
イエス様がなされたことが、終わりの時代にも再び起こるといふ宣言です。
そして私たちは今、まさにその時代に生きているのです。

イエス様ご自身は、「偉大な癒し主」であると自称されませんでした。

むしろ、すべての栄光を父なる神に帰し、こう言われました：

「わたしは、自分からは何もできない。」

これは、なぜすべての病人を癒さなかったのかと

問われたときの答えでした。

イエス様は、父なる神の御心と導きのままに動かされたのです。

- 15 イエス様がベテスダの池に行かれたとき、
そこには足の不自由な者、手足の萎えた者、目の見えない者たちが
何千人も横たわっていました。

イエス様はその人々の間を歩かれ、

一人の床に寝ていた男を見つけて癒されました。

しかし、それ以外の人々は癒されずに残されたのです。

この出来事はヨハネによる福音書 第5章に記されています。

そして第19節では、ユダヤ人たちに問われたイエス様がこう答えられます：

「まことに、まことに、あなたがたに言います。

子は、父がしておられることを見て行うのでなければ、

自分からは何も行うことができません。

父がなさることは何でも、子もそのとおりに行うのです。」

キリストは完全に神を信頼しておられました。

なぜなら、イエス様の身体はただの器であり、

その内に神ご自身が住んでおられたからです。

聖書にはこうあります：

「神はキリストのうちにて、

世をご自分と和解させておられた。」

— コリント人への第二の手紙 5章19節

- 16 さて、アブラハムは神から約束を受け取った後、旅を続けました。

神がその約束を確認されたのちのことです。

そして創世記18章のあたりで、彼が再び登場します。

この時点で甥のロトはアブラハムと別れ、ソドムとゴモラへ

下っていきました。

このロトの行動は、今日の中途半端な信者 (lukewarm believers)

の姿にとてもよく似ています。

つまり、この世や世のものを愛してしまう人々のことです。

聖書にはこうあります：

「もし誰かがこの世を愛するなら、その人のうちには

父なる神の愛はありません。」

— ヨハネの第一の手紙 2章15節

ロトは信仰から後退した者たちと共に下っていきました。

しかしアブラハムは、神が彼を置かれた場所にとどまり続けたのです。

なぜなら彼は、

「神が全てを自分に相続させてくださる」

という約束を確信していたからです。

17 それで、その土地は貧しく、家畜もきつと少なかったことでしょう。

ある日、アブラハムが樫の木の下に座っていたとき、目を上げると、

3人の人が彼の前に立っていました。

そのうちのひとりこそ、全能の神ご自身だったのです。

不思議ではありませんか？

なぜ神は塵まみれの人の姿で現れたのでしょうか？

アブラハムは彼らをもてなし、

子牛を屠り、その肉を調理し、バターとミルクを用意し、

サラはパンを焼きました。

それらを神の前に並べたのです。

そして、全能の神が人のように食事をなさったのです。

神が何をされたのか、想像してみてください。

神はただ、

— 握りの原子、石油(訳注:炭化水素や脂質など)、

そして宇宙の光＝人間の体を構成する元素たちを取り上げて、

それをひとつの肉体として形作り、そこにご自身を宿らせたのです。

それは、やがて成し遂げられること——

すなわち、イエス・キリストの肉体の中にご自身が現されること

(受肉)——

の予告編のような出来事だったのです。

18 ああ、彼は素晴らしいです。ある輝かしい日、私たちのこれらの体は元の場所に戻ってきます。しかし、

私たちの精神が神に正しければ、復活の時にすべての体が再び戻ってきます。

先日、髪をとかしていたところ、妻が「ビリー、髪の毛がほとんどなくなっている」と言いました。

私は言いました、「でも、ハニー、私はそれらのうちの1つを失っていません。」

彼女は「彼らはどこにいるの?」と言いました。

私は言いました「私がそれらを手に入れる前に彼らはどこにいましたか? 彼らは今、復活の時に私を待っています。」アーメン。彼らはかつてそうではありませんでした。それから彼らがいた時がありました。今、そうでない時があります。しかし、聖書によれば、彼らが再び来る時があるでしょう。

19 先日、あるお医者さんに会って、私はこう尋ねました。

「先生、人間は食べ物を食べるたびに、体内で血液の細胞が作られ、それによって成長していくって、本当ですか?」

彼は「それは本当です」と答えました。

私は続けました。

「じゃあ、質問です。私は今でも16歳の頃と同じような食べ物を食べています。いや、もしかすると当時よりも良いものを、もっとたくさん食べているかもしれません。」

でも16歳のときは、食べれば食べるほど大きくなり、強くなり、成長しました。

ところが今はどうでしょう? 同じように食べていても、年老いて弱っていくばかりです。

——これは科学で説明できますか?」

グラスに水を注ぎ続ければ、満杯になり、あふれてくるのが自然です。

でも人の体は、ある一定のところまで来ると、どれだけ注いでも減っていくように見える。

なぜでしょうか?

それは神がそう定められたからです。

まるで花と同じです。

種から芽が出て、育ち、やがて満開を迎える。

しかしその後はしおれていきます。

けれどまた再び咲くのです。

20 神がアブラハムに現れたとき、神は「人の姿」で現れられたのです。

アブラハムは、その足のほこりを洗い、神をもてなしました。聖書には、それは神ご自身だったと明確に記されています。

そして神は、背をテントに向けたままこう言われました。

「アブラハム、サラはどこにいるのか？」

アブラハムは答えました。

「テントの中にいます。」

神は言いました。

「来年の今ごろ、女の常のとおり、わたしはサラを訪れるであろう。」

このとき、サラは心の中で笑ったのです。口には出していませんでした。

それでも神はアブラハムに言いました。

「なぜサラは笑ったのか？」

これは何を意味しているでしょう？

神は、すべてをご存知です。

人の外側だけでなく、心の中までも見通される方です。

これこそ、神のしるしであり、

「予見し、見通し、語り当てる」力を持つ方の証拠です。

イエス様が井戸のほとりで出会ったサマリヤの女に、

「あなたには五人の夫がいた」と言ったのも、

同じしるしでした。

彼女は言いました。

「私はキリストが来られるときに、そういうことをされる方だと知っています。」

そのときイエス様は言われました。

「そのキリストが、今あなたと話している私だ。」

アブラハムのもとに来られたお方も、

あの井戸のほとりにおられたお方も、

同じイエス様です。

そして、今日も変わられません。

21 ここで、もうひとつ注目すべき点があります。

たぶん、この部分で批判したくなる兄弟たちもいるかもしれません。

でも、どうか、今は静かに心を開いて、

家に帰ってからでもいいので、このことを深く考えてみてください。

神がアブラハムに約束を与えられたとき、

そこにはただの言葉だけではない出来事が伴っていたのです。

聖書を読んでいると、

もしその経験が単なる学校や神学校の知識からだけであれば、

何か大切なものが欠けているのです。

ブラナム兄弟は、聖書を「体験を伴って読むこと」

の重要性を語っているのです。

神の約束が実際にどのように働くのか——

アブラハムとサラの身体に起きた変化こそ、その証しです。

22 聞いてください。あなたは神の御霊によって新しく

生まれなければなりません。そうでなければ、決して神の御言葉を

理解することはできません。神ご自身がそうおっしゃったのです。

神は「わたしはこの聖書を、知恵ある者や賢い者から隠し、

信じる幼子たちにこれを現す」と言われました。

もし神から何かを受け取りたいなら、ただ幼子のようになってください。

聖書を開き、イエス様と恋に落ちたように心から愛してください。

23 さて、私の妻が私に手紙を書くとき、私はそれを読みます。彼女はたいていこう書き始めます。「親愛なるビリーへ。今夜私はここに座って、あなたのことをたくさん考えています。」それが紙に書かれている内容ですが、私はその行間から、彼女が本当に伝えたいことを感じ取ることができます。

聖書も同じように、行間を読まなければなりません。なぜなら、

神はただ文字として読む人たちからはその意味を隠されているからです。

私は今、聖書の言葉を引用しています。「わたしはこの御言葉を

知恵ある者や賢い者から隠し、幼子のように学ぼうとする者にそれを現す」

と書かれています。この聖句を読んだことがある人は

「アーメン」と言ってください。

つまり、自らを低くし、思い上がりせず、謙遜になって

「主よ、私は信じます」と言える人、そういう幼子のような者にこそ、

神はご自身を現してくださるのです。

24 私の友人、ジョン・スプロールがフランスにちょっとした旅行で来たときのことで、たしかアルザス・ロレーヌ地方だったと思います。彼がある庭園に入ると、そこにイエス様の像がありました…。



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示

録 10:7